

2023年7月24日
東日本旅客鉄道株式会社
横浜支社

鶴見線への新型車両投入について

JR東日本では、安全性・安定性、快適性を高め、安心してご利用いただけるサステナブルな社会を目指した鉄道づくりを推進し、輸送品質の向上を追求しています。

このたび、鶴見線に新型車両E131系を投入することとしましたので、お知らせします。

このE131系は、車内の快適性向上、お客さまへの情報提供の充実、バリアフリー化の推進を図るとともに、モニタリング技術^(※)を活用することで、安全性・安定性の向上を実現します。

(※) モニタリング技術とは、各機器の状態を常時監視することで、運用中に機能確認や異常の把握を行う技術のことです。

1. 形式および編成数
E131系
3両編成を8編成、合計24両を投入します。
2. 投入線区
鶴見線（鶴見～扇町・大川・海芝浦駅間）
3. スケジュール
今冬から順次、営業運転を予定しています。



鶴見線に投入するE131系



4. 車両デザインについて

- ・車両の外観は、海をイメージしたスカイブルーを取り入れました。
また、前面のドットはかつて鶴見線で活躍した歴代の車両カラーとなっており、茶色は1959～1996年、黄色は1979年から現在までに運行している車両色を採用し、鶴見線のこれまでの歴史を表現しています。
- ・車両の室内は、外観との統一を図り、座席に青色を用いることで、海沿いを走る爽やかな雰囲気表現しています。

5. 主な特徴（別紙1、別紙2）

- ・運行情報や乗換案内を表示する大型ディスプレイ（17インチ）を一部のドア上部に設置し、情報提供の充実を図ります。
- ・座席幅を拡大し、クッション性を向上させ、車内の快適性の向上を図ります。
- ・車いすやベビーカーをご利用のお客さまのためのフリースペースを各車両に設けます。
- ・各車両の客室に車内防犯カメラを設置します。また、従来の車両では1両に1ヶ所だった非常通報装置を4ヶ所に増やします。
- ・車両側面にカメラを設置し、乗務員が運転台からお客さまの乗降を確認する機能など、ワンマン運転に対応した機器を搭載します。
- ・モニタリング技術を活用した車両搭載機器や線路設備の状態監視機能により、故障の予兆を把握し、事前に対処することでさらなる安全性・安定性向上を実現します。
- ・主回路機器にSiC（炭化ケイ素）半導体素子を採用することにより車両の消費電力を抑制し、環境性能を向上します。

※画像等はすべてイメージです。

鶴見線 E 1 3 1 系新型車両の概要

■主な特徴

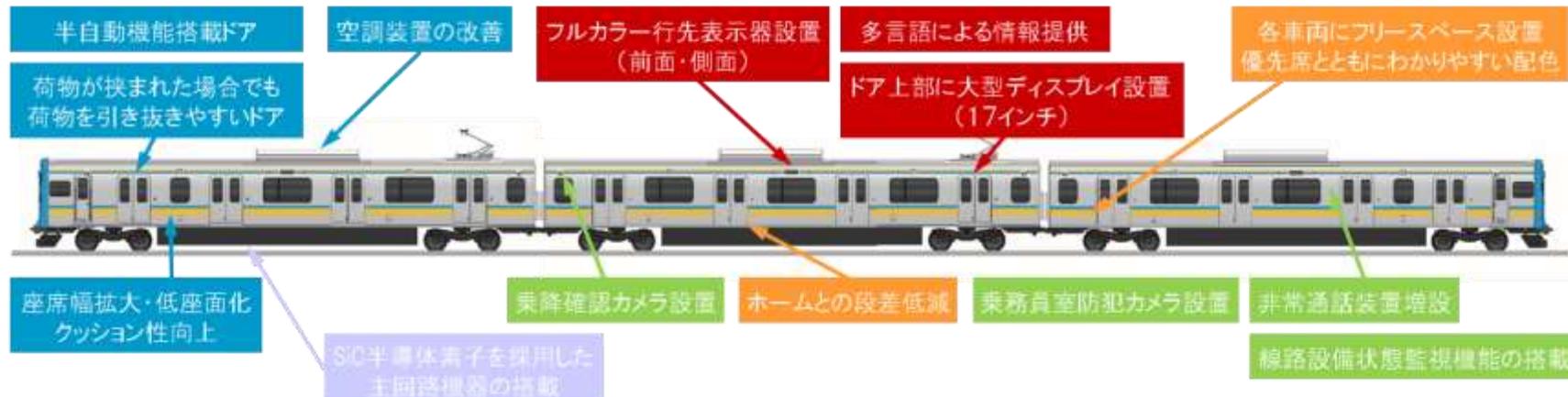
- 安全・安定性の向上
- 車内の快適性向上
- お客さまへの情報提供の充実
- バリアフリー化の推進
- 環境性能の向上



客室内
(イメージ)



フリースペース
(写真: E131系相模線)



多言語による情報提供画面
(イメージ)



乗降確認カメラ
(写真: E131系相模線)



線路設備状態監視
(イメージ)

鶴見線 E 1 3 1 系新型車両の概要 ～ 2 0 5 系との比較～

別紙2

	 (参考)E131系相模線	 E131系鶴見線	 205系
編成構成	4両編成(2M2T)	3両編成(2M1T)	3両編成(2M1T)
最高速度	110km/h	100km/h	100km/h
車体	ステンレス製	ステンレス製	ステンレス製
車体幅	2950mm(拡幅車体)	2778mm(ストレート車体)	2800mm
座席1人当たりの幅	460mm	460mm	約435mm
シート方式	ロングシート	ロングシート	ロングシート
制御方式	VVVFインバータ制御(SiC素子) 回生ブレーキ	VVVFインバータ制御(SiC素子) 回生ブレーキ	界磁添加励磁制御 回生ブレーキ
主電動機	全閉型誘導電動機	全閉型誘導電動機	直流電動機
補助電源装置	静止型インバータ	静止型インバータ	静止型インバータ
コンプレッサ	スクロール式(オイルフリー)	スクロール式(オイルフリー)	レシプロ式
車両情報管理装置	モニタ装置	モニタ装置	なし
戸閉装置	電気式(ラックアンドピニオン方式)	電気式(ラックアンドピニオン方式)	空気式
情報提供装置	液晶ディスプレイ	液晶ディスプレイ	なし
車両状態監視機能	あり	あり	なし
線路設備状態監視機能	あり(一部)	あり(一部)	あり(一部)
ワンマン運転対応機器 (乗降確認カメラ等)	あり	あり	なし